

～米大統領選挙サイクルからみる米国株式の動向について～

10月には、米国において、財政をめぐる議会の駆け引きで政府機関が一時閉鎖に追い込まれたこともあり、市場では、政治要因等が注目されています。

政治と株式相場の関連性を示す株式市場の傾向の1つに、「米大統領選挙サイクル」というのがあります。米国の大統領選挙は4年毎に行われ、その周期と株式相場が、関連性のある動き方をするとされています。

4年周期でNYダウの年間騰落率(平均)を見てみると、大統領就任1年目、2年目の上昇率は小さく、3年目、4年目の上昇率が大きくなっています。(図表①)

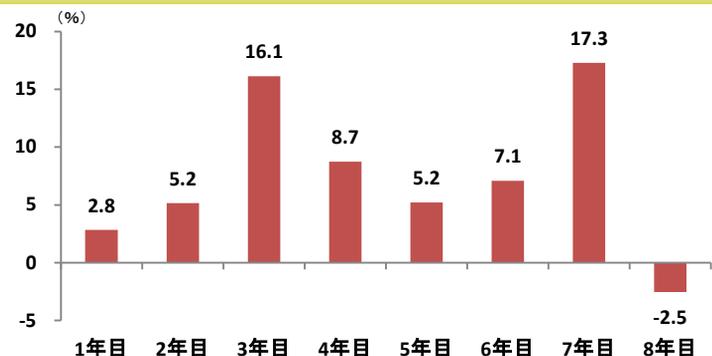
また、大統領の就任期間毎のNYダウの年間騰落率(平均)を1953年以降(米国合衆国憲法修正第22条により、1951年2月27日以降、1人の大統領の任期を10年までとした最初のアイゼンハワー大統領から)、2012年までの大統領就任期間毎のNYダウの年間騰落率(平均)をみてみると、3年目と7年目の上昇率が大きくなっています。3年目、7年目は、大統領選挙の前年ということもあり、選挙を有利にするために政府が経済政策などに力を入れることが多いこと等が理由として考えられます。(図表②) 同様に1953年以降2012年までの民主党、共和党政権時のNYダウの年間騰落率(平均)を比較すると、民主党政権時は+9.3%、共和党政権時は+6.5%となっています。(図表③)

今回のオバマ政権は、前回の民主党政権であるクリントン政権時と似通った環境にあると思われます。双方とも、共和党ブッシュ政権(親・息子)からの引継ぎであること、クリントン政権は湾岸戦争(1990年8月)による戦費拡大で財政赤字が拡大した後スタートしたこと、オバマ政権は2008年のリーマン・ショック後に発足したこと等です。今後の米国株式の推移が注目されます。(図表④)

【図表①:米大統領就任期のNYダウの年間騰落率】

年間騰落率(%)	1年目(5年目)		2年目(6年目)		3年目(7年目)		4年目(8年目)		
	中間選挙				本選挙				
共和党	T.ルーズベルト	1901	▲ 8.7	1902	▲ 0.4	1903	▲ 23.6	1904	41.9
	T.ルーズベルト	1905	38.2	1906	▲ 1.9	1907	▲ 37.7	1908	46.6
	W.H.タフト	1909	15.0	1910	▲ 17.9	1911	0.4	1912	7.6
民主党	W.ウィルソン	1913	▲ 10.4	1914	▲ 5.1	1915	32.7	1916	▲ 4.2
	W.ウィルソン	1917	▲ 21.7	1918	10.5	1919	30.5	1920	▲ 32.9
共和党	W.ハディンク/C.ケールゲン	1921	12.7	1922	21.7	1923	▲ 3.3	1924	26.2
	C.ケールゲン	1925	30.0	1926	0.4	1927	28.8	1928	48.2
	H.フーバー	1929	▲ 17.2	1930	▲ 33.8	1931	▲ 52.7	1932	▲ 23.1
民主党	F.D.ルーズベルト	1933	66.7	1934	4.1	1935	38.5	1936	24.8
	F.D.ルーズベルト	1937	▲ 32.8	1938	28.1	1939	▲ 2.9	1940	▲ 12.7
	F.D.ルーズベルト	1941	▲ 15.4	1942	7.6	1943	13.8	1944	12.1
	トルーマン	1945	26.7	1946	▲ 8.1	1947	2.2	1948	▲ 2.1
共和党	トルーマン	1949	12.9	1950	17.6	1951	14.4	1952	8.4
	アイゼンハワー	1953	▲ 3.8	1954	44.0	1955	20.8	1956	2.3
	アイゼンハワー	1957	▲ 12.8	1958	34.0	1959	16.4	1960	▲ 9.3
民主党	ケネディ/ジョンソン	1961	18.7	1962	▲ 10.8	1963	17.0	1964	14.6
	ジョンソン	1965	10.9	1966	▲ 18.9	1967	15.2	1968	4.3
共和党	R.ニクソン	1969	▲ 15.2	1970	4.8	1971	6.1	1972	14.6
	R.ニクソン/G.フォード	1973	▲ 16.6	1974	▲ 27.6	1975	38.3	1976	17.9
民主党	J.カーター	1977	▲ 17.3	1978	▲ 3.2	1979	4.2	1980	14.9
共和党	R.レーガン	1981	▲ 9.3	1982	19.6	1983	20.3	1984	▲ 3.7
	R.レーガン	1985	27.7	1986	22.6	1987	2.3	1988	11.9
民主党	J.H.W.ブッシュ	1989	27.0	1990	▲ 4.3	1991	20.3	1992	4.2
	B.クリントン	1993	13.7	1994	2.1	1995	33.5	1996	26.0
共和党	B.クリントン	1997	22.6	1998	16.1	1999	25.2	2000	▲ 6.2
	J.W.ブッシュ	2001	▲ 7.1	2002	▲ 16.8	2003	17.5	2004	▲ 1.6
民主党	J.W.ブッシュ	2005	▲ 0.6	2006	16.3	2007	6.4	2008	▲ 33.8
	B.オバマ	2009	18.8	2010	11.0	2011	5.5	2012	7.3
	B.オバマ	2013		2014		2015		2016	
平均(1900-2012)			5.5		4.0		10.4		7.3

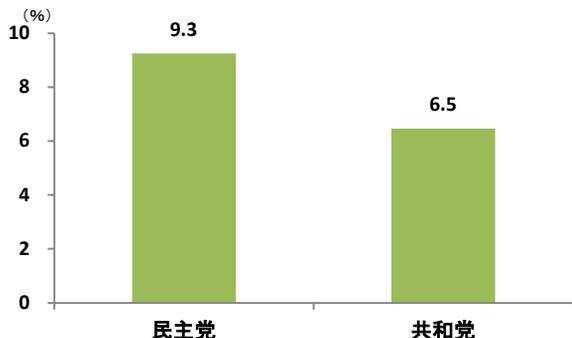
【図表②:米大統領の就任期間、年別NYダウ年間騰落率(平均)】



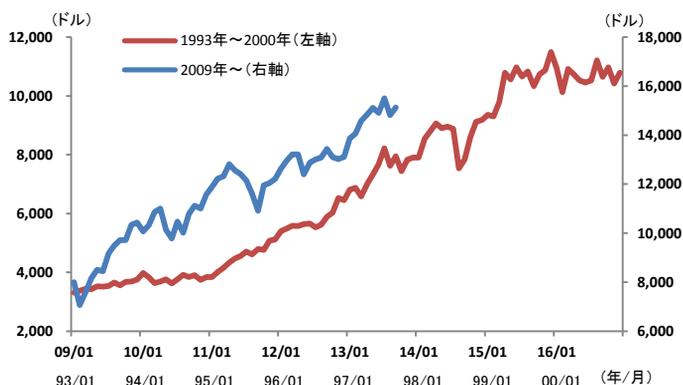
※1953年以降2012年まで(米国合衆国憲法修正第22条により、1951年2月27日以降、1人の大統領の任期を10年までとした)の就任期間、年別年間騰落率(平均)

【図表③:民主党、共和党政権時のNYダウ年間騰落率(平均)】

(期間:1953年～2012年)



【図表④:クリントン政権時とオバマ政権時のNYダウの推移】



出所:図表①～④はブルームバーグのデータよりニッセイアセットマネジメントが作成

当資料は市場環境に関する情報の提供を目的としてニッセイアセットマネジメントが作成したものであり、特定の有価証券等の勧誘を目的とするものではありません。当資料は信頼できると考えられる情報に基づいて作成しておりますが、情報の正確性、完全性を保証するものではありません。当資料のグラフ・数値等はあくまでも過去の実績であり、将来の投資収益を示唆あるいは保証するものではありません。また税金・手数料等を考慮しておりませんので、実質的な投資成果を示すものではありません。当資料のいかなる内容も、将来の市場環境の変動等を保証するものではありません。